

本名	石 井 修 平
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 6 1 号
学位授与の日付	昭和44年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	黄体ホルモン系ステロイドに関する研究 —特に, Δ^5 Pregnenetriol Pregnanetriol, Pregnanetriolone 及び Pregnanetetrol の尿中排泄値 について—
論文審査委員	教授 橋本 清 教授 大藤 真 教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Pregnanetriol (Pt)及び Δ^5 Pregnanetriol (Δ^5 pt)を除く Pregnane-triolone (P-triolone) 及び Pregnane-tetrol (P-tetrol)等は副腎異常患者について報告があるのみで、正常例の尿中排泄値の報告はいまだみあたらない。

著者は周期尿を含む正常例、性腺異常例、副腎異常例、下垂体異常例及び膠原病例等の豊富な対象例に対して、岡大法により上記4ステロイドの尿中排泄値を定量測定した。また、これら4ステロイド産生臓器の機能を明確にするために一連の負荷試験を行なった。即ち、副腎皮質刺戟試験、Metopirone (SU-4885) テスト、幅腎皮質抑制試験及び卵巣刺戟試験等である。以上の結果により、次の如き結論をえた。

- (1) 卵胞期及び黄体期の正常尿中排泄値は十分に定量測定し得た。
- (2) 4分画ステロイド共に副腎皮質機能と密接な関係がある。
- (3) 黄体機能と最も関係が深いのは pt であり、 Δ^5 pt は若干ながらそれに次ぐ。
- (4) P-triolone 及び P-tetrol は卵巣機能と殆んど関係がない。
- (5) ステロイド代謝の源流に位置するこれら4ステロイドを Pregnanediol (Pd) と共に一環して測定することは、酵素活性の変動を見る上でも臨床的意義の高いものとする。

昭和44年6月1日、日本産科婦人科学会雑誌第21巻第6号に掲載予定

論文審査の結果の要旨

本研究は尿中に排泄される Pregnanediol, Pregnanetriol, Δ^5 Pregnanetriol, Pregnanetriolone 及び Pregnanetetrol の内従来報告のみられなかった P-diol を除く 4 者を同時に計測する方法を開発した。正常婦人にも計測しうることを、これらは副腎機能と密接な関係のあること、黄体と関係の深いのは Pt で Δ^5 Pt が若干ある。P-triolone P-tetrol は卵巣機能と関係がないということ等価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。